第３回（平成28度）「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」
【活動報告書】

- 活動に関する写真等もありましたら添付してください。（子どもの写真など掲載許可が必要なものは、可能な範囲で各自事前にご確認ください。掲載・使用不可の写真がある場合は、その旨お書き添えください。）
- なお、本活動報告書の内容は、全国の学校をはじめ、より多くの方々に多様な各地の防災・減災教育の取り組みを知っていただくために、ホームページや印刷物などで公開いたします。

学校名	〔　大阪　〕府　　大阪市立　晴明丘小学校
担当教員名	小椋 健司
活動のテーマ	地域・関係諸機関と連携した防災・減災教育
主な教科領域等	教科領域（　総合・学校行事　　）
活動に参加した生徒数	（全学年　６６７人）（複数可）
活動に携わった教員数	３０人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	５０人　【保護者・地域住民・その他（　区役所　）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成　２８年　　４月　１日　　～　　平成　　２９年　３月　３１日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震　津波　台風　・　洪水　・　河川氾濫　・　土砂　・　その他（　火災　）

活動報告

１）活動の目的・ねらい

○地震、 津波など災害に関する知識についての理解

○ 防災に関する意識啓発と地域との連携の大切さを知る。

○避難訓練（地震発生）や救護訓練などを見学、体験することにより、 災害時の行動について学び、減災教育に活かす。

２）実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

①９月２４日・・・４校合同防災教室

中学校校下（３小１中）で合同の防災訓練を行った。中学生が「防災ジュニアリーダー」となって取り組んだ。消防署によるロープの結索実習、区役所の震災救援談、アルファ米と豚汁の炊き出しなどを行った。

②１１月２１日・・・火災の避難訓練

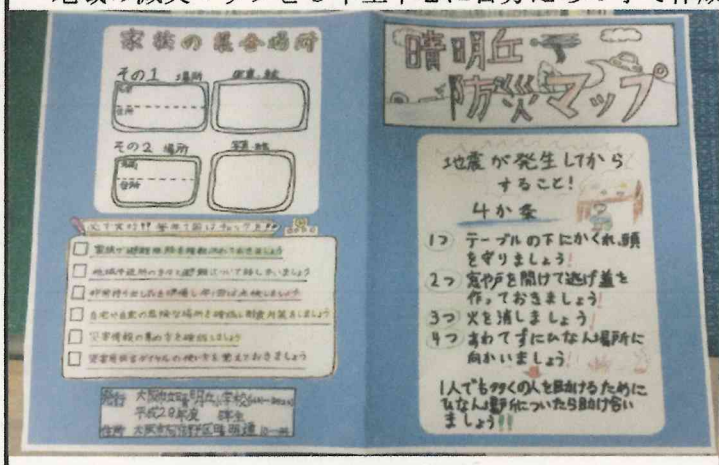
全校生徒による火災の避難訓練を行う際に、２年生以上は、先生の誘導なしに、自分たちで運動場へ避難した。自助の精神を養うことができた。

③１１月２４日・・・減災教育の取り組み

学校長が東日本大震災の被害にあった気仙沼へ研修に行って学んだことを中心に２学年ずつ１時間程度、映像も交えながら話をした。また今回、本校にある備蓄倉庫に何が入っているかを学習するということで、５年生に備蓄倉庫の荷物を全て講堂に出してもらい、全員で備蓄倉庫物資の確認をした。６年生には元の位置に戻してもらった。区役所にも来ていただき、備蓄倉庫にある物資の説明などをした。本校の備蓄倉庫の存在に初めて気づいた児童もたくさんいて、地震や津波の備えの学習として、一段と深まった学習活動になった。

④１１月～２月・・・地域の減災マップ作り

地域の減災マップを５年生中心に自分たちの手で作成する。地図には、標高を併記する。



⑤１月・・・震災・津波の避難訓練

全校生徒による地震・津波の避難訓練を行う際に、全校生徒が先生の誘導なしに、自分たちで運動場へ避難した。自助の精神を養うことができた。

３）９月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

③備蓄倉庫の確認
②⑤避難訓練に児童が主体的に避難する
④標高を併記することによって、津波の際に自分がいる場所からどこに避難すべきかということの意識が高まった。

４）実践の成果

（１）減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

②⑤避難訓練においてこれまでは教員が先頭に立って誘導していたが、今回の研修を通して子どもだけで避難する訓練を行った。
③本校の備蓄倉庫の存在や阿倍野区としての救援物資に対する考え方を理解するようにした。

（２）児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

③本校の備蓄倉庫の存在に初めて気づいた児童もたくさんいて、地震や津波の備えの学習として、一段と深まった学習活動になった。

（３）教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

②⑤避難訓練を児童が自主的に避難する危険性を主張する教師が複数いたが、取り組みを行った結果、もっと子どもたちの自主性を伸ばすことができる可能性を感じるように変化した。
③防災に対する児童の意識が大変高まった。

５）自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

②⑤避難訓練を行う際に、これまでは教師が先導して避難していたが、今年度より児童が自主的に避難するようにした。
③児童に備蓄物資を確認してもらいながら、避難所開設時の役割を意識できるようにした。
④児童自身が作成することによって意識が高まった。また、標高を併記することによって、津波の際に自分がいる場所からどこに避難すべきかがより明確になった。

６）実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

③まだまだ、地震や津波についての知識や理解が不十分であるので、学習する機会を増やし、内容を深めながら、進めていく必要がある。

７）その他（※特にあれば記述）

※別途、補足資料などがある場合は、添付してください。　（添付資料の　有　・　無）